

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



藤本 一郎 農業部門（地域農業開発計画）

勤務先：株式会社ルーラルエンジニア TEL：011-726-2411

私は1949年（昭和24年）生れ、団塊の世代の技術士です。私の合格した選択科目の「地域農業開発計画」は現在「農村地域計画」となり、時代の変化を感じています。私が「地域農業開発計画」の仕事に興味を持ったのは、学生時代（大昔？）に南アジアの大学で生活する機会があり、そのときの食料不足に対する体験からでした。

そこでは、食料不足による政情の不安定（外出禁止令の発令）、民族間対立の激化、米の配給制（“no-rice&no-bread day”の制定）、キャンパス封鎖、コレラ等病気の蔓延等を経験させていただきました。

主食になる穀物が不足したときに我々の生活はどのようになるのか、実験の出来ない社会科学の勉強をしていた私には強烈な体験となって残りました。もし、日本で食料の国内生産が需要に追いつかず、海外からの輸入も受けられなくなったとき、国民生活の混乱は、私の体験したものより大きなものになると思います。自国で食料が不足しているときに、外国の食料不足を助けてくれる国はありません。経済のグローバル化が進んでも、経済的に解決出来る範疇の問題ではなくなっています。それぞれの地域で一定量の基礎食料の生産・確保を図ることは、グローバル化社会における地域の責任ではないでしょうか。昨今の食料問題を考えたとき、新たなパラダイムとして、自給率のことをもう一度考え直す時期に来ていると思います。



次号は、南部雄二さん（農業部門）



佐藤 導謙 農業部門（農業及び蚕糸）

勤務先：自営（農業、佐藤技術士事務所）、

財北農会・農業技術コンサルティングセンター嘱託

私は、1990年（平成2年）から16年間、道立農業試験場で畑作物の研究に従事していました。技術士資格は2002年度（平成14年度）に取得し、在職中に登録を試みたのですが、組織の理解が得られず、かないませんでした。同じ道職員でも登録されている方がいる中で、このようなことを繰り返さないようにしてほしいと切に願います。登録できたのは、2006年（平成18年）に家業の農業を継ぐために退職してからとなりました。

技術士の登録を行ったとはいえ、この肩書きで生活が出来るだけの仕事はありません。しかしながら、私は技術士資格を取得して、自分の思考回路に大きな幅ができた実感しています。私は帰農してから、町の産業クラスター研究会や林業研究会などに誘われ、また「道北作物学会」の立ち上げや町の総合計画審議委員など、従来私がかかわったことがないような分野の体験をしています。このような未知の領域においても、技術士としてのものごとの考え方を応用すると十分に活動できるを感じています。

北海道の農業は、日本では特異な食糧基地としての役割を期待されています。しかしながらいざ帰農してみると、その足元は、後継者の絶対的な不足や対豪FTA問題などにより極めて脆弱であることが思い知らされます。地域のもう一つの主力産業である林業も同様であり、目先の利益のために森が荒れていく事態が起こりつつあります。現代社会では、農林業は投下した資本の回転が非常に遅いことから、不経済な産業とみなされます。本当にそれでよいのでしょうか。技術者の皆さんと一緒に考えていきたい問題です。



次号は、木村義彰さん（農業部門）



杉木 直 建設部門（道路） e-mail：ns 1491@docon.jp

勤務先：株式会社ドーコン 総合計画部 TEL：011-801-1555

私は、青森市に生まれ、大学時代は仙台で過ごしました。その後、群馬大学建設工学科で助手を約4年間務め、縁あって現在の会社に入社し、交通計画一般や道路事業の評価などに関する仕事に携わって約4年半が過ぎたところです。

現在は、主に2006年（平成18年）より実施されている第4回道央都市圏パーソントリップ調査に関する業務に携わっています。人口減少、少子高齢化といった社会背景を受け、都市の構造は拡大から安定期に移行してゆく中、交通計画の方向性も「量」から「質」へと変化しています。また、郊外に居住し自動車利用を中心としたライフスタイルを持つ人、都心のマンションなどに居住し公共交通中心のライフスタイルを持つ人などが混在しており、交通計画の課題も多様化しています。学生時代より、このような「都市の構造」と「交通行動」の關係に着目した分析や研究に深く携わってきたこともあり、現在はこれらの知見を実際の計画の場で生かせる機会だと思い、張り切って業務に取り組んでいます。

また、最近は避難を中心とした防災分野に興味を持っています。これまでの交通行動に関する知識を生かしてゆきたいのですが、実際の災害に直面した人々は的確な避難行動がとれないという人間の心理をきちんと理解することが重要だと思っています。

技術士として、人々の安全で豊かな暮らしの実現に少しでも貢献できることを目標に、今後とも技術の研鑽に励みたいと思います。



次回は、東本靖史さん（建設部門）



原山 巧 上下水道部門（上水道及び工業用水道）

勤務先：苫小牧港管理組合 TEL：0144-34-5551

4月の人事異動で苫小牧港管理組合に配属となり、1979年（昭和54年）、苫小牧市に奉職して以来、初めての外部職場となります。私はこれまで、水道17年、下水道7年、都市計画5年と水行政に24年間携わってきましたが、25年目の水行政は港湾事業となりました。

これまでの水行政で忘れられない出来事と言えば、技術士初挑戦となった1996年（平成8年）に発生した水道水異臭事故であります。筆記試験が8月29日（木）、異臭事故発生が31日（土）と、事故発生が数日早ければ、試験を受けることができなかったかも知れないと、今でも思っています。異臭事故は、本市の西部地区にある浄水場水源（河川表流水）が上流部の私有地に液体の汚染物質が投棄されたことから地下水を經由して汚染され、これが原因で浄水の塩素濃度が低下したため、塩素注入量を増加させた結果、市内西部地区の水道水が強い塩素臭に見舞われたという事故で、本市水道事業が経験したことのない大きなものでした。この経験が風化することなく後世に語り継がれ、今後の危機管理対策に是非、役立てて欲しいと考えている一人であります。

緊急事態で昼夜問わずの仕事となったため、試験を受けたことさえ忘れてしまう程の忙しさでしたが、初挑戦となった技術士筆記試験は、何事もなかったように「合格」、口頭試験でも異臭事故のことを試験官に伝えることができ、大変満足して帰ってきたのを覚えています。



次号は、湯浅八八老さん（上下水道部門）

エンジニアパーク

Engineer



奥野 正洋 水産部門（水産土木）

勤務先：株式会社アルファ水工コンサルタンツ

私は、1996年（平成8年）3月に室蘭工業大学工学部建設システム工学科を卒業し、同年4月に株式会社アルファ水工コンサルタンツに入社し、現在に至るまでに、主に漁港・港湾の計画・設計の業務に携わって参りました。同社入社後からの大半の時期は、漁港構造物の設計業務、とりわけ、軟弱地盤の問題に多く励んで参りました。

次第に、直面する問題や課題が多岐に渡るようになり、近年では、安全・安心な水産物の供給基盤としての漁港機能について、あるいは、漁業地域の活力向上について考えさせられる機会が多くなりました。特に、私が活動拠点とする北海道は、我が国が生産する水産物の多くを供給する地域であり、北海道にとっても水産業は重要な産業であります。そのため、近頃世間で騒がれている食の安全・安心の問題や、自分が住む地域の活力向上について考えることは、日ごろ携わる業務とも色々な部分で繋がるようになってきたところです。

水産土木のコンサルタントとしては、大学や入社直後に勉強した土木工学を基礎としつつ、我が国の水産業・漁村の健全な発展に資するために必要となる、幅広い専門知識や技術を取り入れながら進まなければならないということを強く思う次第です。勿論、私個人の力量だけでは到底解決できない問題が沢山ございますので、同じ目標に向かう技術士の方々と、様々な専門者、そしてこれから技術士を目指すような若い技術者の方々との交流や協力を大切に参りたいと思います。皆様、どうぞ、宜しくお願いいたします。



次号は、中山威尉さん（水産部門）



石塚 弘 建設部門（都市及び地方計画）

勤務先：北海道建設部住宅局建築指導課参事

昨年の漢字は偽装の「偽」という大変象徴的な年になりました。経済が優先し、個人や企業の社会的責任意識が希薄になってきていることから、これまで備わっていると信じられていた「安全・安心」の確保が本当に困難な時代になってきています。建築分野では、構造計算書の偽装に始まり遊戯施設やエレベーターの事故が相次ぐ中、建築を巡る社会不安が大変広がりました。道は、昨年6月に建築指導課に新たに建築物の安全推進の担当部署を設置し、私は現在その責任者を務めています。設置以来エレベーター等の緊急点検や新潟県中越沖地震で被災した建築物の応急危険度判定支援など対応に追われましたが、建物の適正な維持保全や耐震改修を促進し、震災や火災等から道民の暮らしの安全安心を確保することが、我がチームの基本課題。しかしこれまで、建物所有者等の理解が十分に得られず思ったようにはなかなか進捗していないのも実態です。

今年の1月に阪神・淡路大震災は発生から13年という歳月が経過したわけですが、本来安全であるべき建物が多くの人命を奪いました。二度とこのような悲劇を起こしたくないと神戸市では違反建築物ゼロを目指し市民と行政の協働による安全で安心できる住まい・まちづくりが進められ着実な成果をあげています。これは神戸だけの問題ではありません。本道の住宅・建築物は安全・安心であると宣言できるように、技術士として専門知識や技術を生かし、強い志を持って、仕組みの構築や普及など社会の要請に応えていきたいと考えており、日々奮闘しているところです。



次号は、椿谷敏雄さん（建設部門）



佐波 勇人 化学部門（高分子製品）

勤務先：株式会社 北開水工コンサルタント

出身・大学共に道外ですが、縁あって道東の建設コンサルタント会社で、主に環境関連の業務に携わっています。恐らく皆さんはこれをご覧になって、「化学！？…そういえば、そんな部門もあったかな」というご感想をお持ちになったのではないのでしょうか。

恥ずかしながら、私が技術士資格の存在を知ったのは6年ほど前に過ぎず、博士後期課程の学生時代でした。その後現在の会社に入社し、業務に建設部門や環境部門の技術士資格が必須と知りましたが、実務1年程度ではこれら分野の経験が十分とは言えず、ならばと、住友化学㈱石油化学品研究所時代の、高分子合成用触媒の開発実績により化学部門を一度受験してみた次第です。私の小学生時代は、貯めたお年玉で化学実験セットを買い、休日は化学の専門書を横に家で実験するのが楽しみというかなり変わった子供でしたが、この時の先行投資？が役だったようです。

これは私見ですが化学は、原子や分子という極めて微視的な領域の挙動を把握することを通じて、様々な科学分野の各種現象の理解に繋がることができる、基盤分野と言えます。事実、住友化学退社後は環境科学、酵素工学、生化学、分析化学、土木工学といった「異分野」に接して現在に至りますが、化学の視点は必ず役立っており、また各分野がご専門の方とは異なった視点での理解や発案に活用できていると感じます。

今後は、化学分野の知識を継続して修得しつつも、現在の主たる業務領域である環境科学や土木工学の分野でも実績を重ね、様々な分野で貢献できる技術者になるべく研鑽に励む所存です。



次号は、明石憲宗さん（農業部門）



野口 晃 応用理学部門（地質）

勤務先：太平洋総合コンサルタント(株) 北見支店

・自己紹介：現在、私はオホーツク地域の北見市で、地質調査関係の仕事をしております。生まれは北見市の南に位置する津別町の出身です。大学卒業後は担当教授の勧めで、東京の地すべりの調査・解析を行うコンサルタント会社に入社して6年、その後転職して砂防関係の調査・計画を6年、更に北海道に戻り、現在の会社では14年になります。

・技術士試験：この試験は47歳で合格ですので、10回以上は試みました。取り立てて書く程のことでもないのですが、今後の参考のために「諦めないで！」と言言。

・他人の考えていること：東京に出るまでの私の「砂」に対するイメージとしては、「火山灰」みたいなものでした。鎌倉出身の人は湘南海岸に見られる三浦層群起源の「黒い砂」、大阪出身の人は花崗岩の風化したマサと呼ばれる「白い砂」、更に沖縄出身の人は珊瑚の欠片や「星の砂」といったイメージでいるらしいことが判りました。「砂」といった簡単な言葉であっても、その中身に対する認識が異なっているため、話がなかなか噛み合わない。

社内の会議や仕事での打合せ等でも、相手の立場や考え方を理解して話を進めないと、意見の一致が得られない。6月には北海道で「洞爺湖サミット」が開催され、地球温暖化対策について話し合われるとのニュースが流れますが、世界が注目するこの催し物で、いろいろな国々の考え方が少しでも噛み合ってくれることを期待したい。



次号は、大戸基史さん（建設部門）